

冷凍式エアドライヤ 別置きのご提案

エアドライヤはコンプレッサとは別に設置した方が省エネです!

処理空気量 0.1~54 (50Hz)
[m³/min(ANR)] 0.12~65 (60Hz)

処理空気量 5.3~13.5 (50Hz)
[m³/min(ANR)] 6.1~15.5 (60Hz)



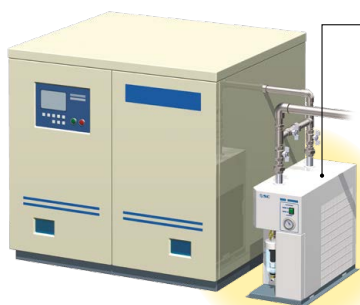
WEBカタログ



WEBカタログ

エアドライヤー体型コンプレッサとの比較

ドライヤ別置き型の場合

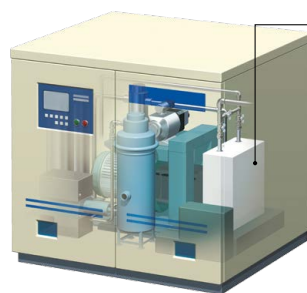


ドライヤ

通気性が良く
熱がこもりにくい

低負荷
省エネ

ドライヤー体型の場合



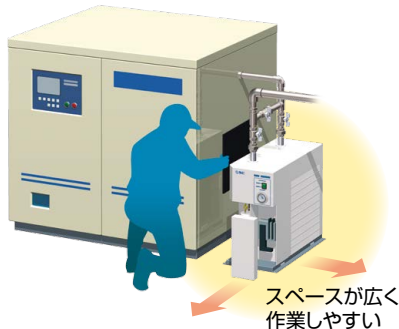
ドライヤ

密閉空間で
熱がこもりやすい

高負荷
エネルギー大

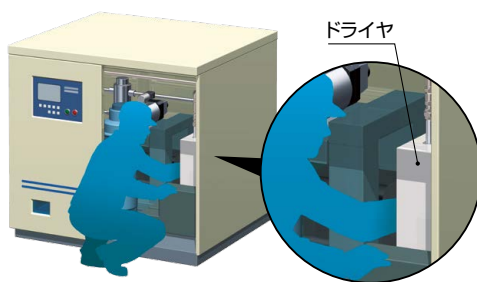
メンテナンスが容易

ドライヤ別置き型の場合



スペースが広く
作業しやすい

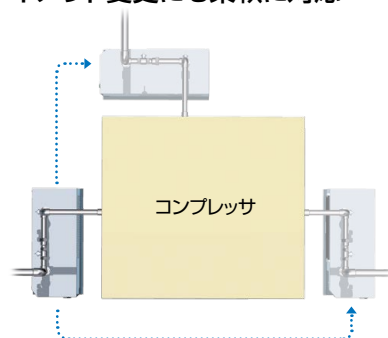
ドライヤー体型の場合



狭い空間で作業が困難

レイアウト変更が容易

突然の工場内設備の
レイアウト変更にも柔軟に対応



IDF/IDU Series

空気圧ラインの低圧化(省エネ)を進められているお客様へ

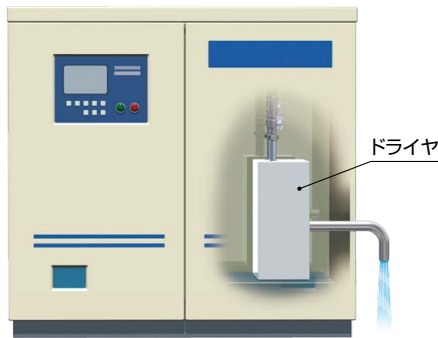
エアドライヤの運転負荷を少しでも低減するために別置きをお勧めいたします!

コンプレッサ吐出圧力の低圧化
0.7MPa → 0.6MPa

理論軸動力 **7.4%***低減

しかしながら… ※当社調べ

圧縮エアの水分量は増加します



内蔵しているドライヤの負荷が増え、
処理きれない水分が
2次側へ流出する可能性があります。

例えば

ドライヤ入口空気圧力が以下のように変化した場合の発生ドレン量(1分間あたり)は、

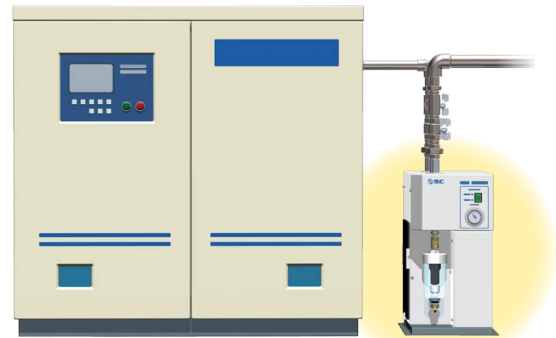
0.7MPa時 **103g/min**

0.5MPa時 **138g/min** **約34%増**

0.3MPa時 **208g/min**

0.7MPaから0.5MPaに減圧すると、
約34%ドレン量が増えます。

※ドライヤ入口温度: 40℃ ※ドライヤ出口圧力露点: 10℃
※空気流量: 20m³/min



大切な設備(空気圧機器)を守るため
冷凍式エアドライヤ/別置き
(バックアップ機)を設置して
万全の備えをしませんか?



⚠ 安全に関するご注意

ご使用の際は「SMC製品取扱い注意事項」(M-03-3)および「取扱説明書」をご確認のうえ、正しくお使いください。

SMC株式会社

<https://www.smcworld.com>

本社/〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX 15F
東京営業所TEL.050-3538-6371 名古屋営業所TEL.050-3538-6453
大阪営業所TEL.050-3538-6520

お客様相談窓口

フリーダイヤル ☎ **0120-837-838**

受付時間/9:00~12:00 13:00~17:00 月~金曜日(祝日、会社休日を除く)

ご相談・ご用命はこちら